

上島の文芸

双葉吟社【岩城】

涼風の肌を引締め秋に入る

名月や多摩連山の浮かびおり

名月や草むす史跡参閑かなる

寄り添うて喜寿の夫と今日の月

名月や古式ゆかしき舞扇

風呂の窓細目に開けてのちの月

糸瓜忌や亡母の句集に目をやりて

忘却に酔うて老いゆく糸芒

名月や吾の影伸ぶ帰り道

破れ案山子今年も競う千枚田

名月に晒す原発被地無情



児島 泰

伊佐 幹男

田中 華丘

山元 征子

美濃部 妃苗

林 七重

森本 伸子

古林 幹枝

森本 和佳

田名後 篁雨

幸本 孤燈

11月の潮汐表

日	潮	高 潮				低 潮			
		時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位
1(火)	中	1:55	307	15:07	348	8:23	41	21:19	138
2(水)	小	2:49	284	16:09	325	9:16	69	22:25	151
3(木)	小	3:58	263	17:20	307	10:22	98	23:46	152
4(金)	小	5:29	254	18:33	299	11:43	119	—	—
5(土)	長	7:00	260	19:36	298	1:07	141	13:09	127
6(日)	若	8:12	278	20:27	301	2:10	122	14:21	126
7(月)	中	9:06	298	21:08	303	2:57	101	15:16	122
8(火)	中	9:50	316	21:42	305	3:35	83	16:00	119
9(水)	中	10:27	331	22:12	306	4:08	67	16:37	118
10(木)	大	11:00	341	22:40	306	4:37	54	17:10	119
11(金)	大	11:32	349	23:08	306	5:05	44	17:41	121
12(土)	大	12:03	353	23:37	305	5:33	37	18:12	124
13(日)	大	—	—	12:36	354	6:02	33	18:44	127
14(月)	中	0:08	303	13:11	351	6:34	33	19:19	131
15(火)	中	0:43	298	13:50	344	7:10	38	19:58	135
16(水)	中	1:23	290	14:35	334	7:51	49	20:45	139
17(木)	小	2:13	279	15:27	322	8:40	65	21:40	140
18(金)	小	3:16	269	16:28	312	9:38	84	22:46	135
19(土)	小	4:37	265	17:35	306	10:50	101	23:58	121
20(日)	長	6:05	273	18:40	306	—	—	12:11	110
21(月)	若	7:23	295	19:40	312	1:07	99	13:31	110
22(火)	中	8:28	323	20:32	320	2:06	71	14:39	102
23(水)	中	9:24	351	21:20	327	2:58	42	15:36	93
24(木)	中	10:14	374	22:05	333	3:46	16	16:27	87
25(金)	大	11:02	390	22:49	335	4:31	—4	17:14	84
26(土)	大	11:47	396	23:31	333	5:14	—16	17:59	85
27(日)	大	—	—	12:32	394	5:57	—18	18:44	90
28(月)	大	0:14	326	13:17	383	6:41	—10	19:29	98
29(火)	中	0:58	314	14:02	366	7:24	7	20:15	108
30(水)	中	1:45	298	14:50	346	8:09	31	21:04	117

※この潮汐表は、尾道港を基準港として計算した弓削港のものです。

大島中学校(宮城県 気仙沼市) への野球用品贈呈について

離島甲子園開催時(8月19~21日)に各会場で募りました募金(合計82,854円)について、皆様から多大なるご協力を頂き誠にありがとうございました。頂いた募金については、東日本大震災の被災地で唯一、離島の中学校野球部がある宮城県気仙沼市立大島中学校に、キャッチャー用具一式、ファーストミット、金属バット等の野球用品を購入して発送致しました。

9月28日には、上村町長が現地を訪れ、離島甲子園の全参加チーム(19チーム)の寄せ書きと来場者に記入して頂いた応援幕、また、村田兆治氏(大会提唱者)のサインボールを贈呈しました。



かみじま歴史探訪

シリーズ：史料が物語る郷土の歴史⑧

上島諸島の寺子屋



江戸時代もなかばになると、寺子屋などでの学習が進んだ模様です。「維新前寺子屋、手習師匠、郷学校、私学校の調査」（県立図書館蔵、年次不詳）の弓削小学校の報告は次のようです。

(一) 名称 大工屋、所在地 弓削村大字上弓削総観寺畑

(二) 沿革 安政ノ頃、大工吉松氏老齢ノ為、寺子屋ヲ開キ親シキ者ノ子弟ヲ教育セシメ、次第二生徒モ多クナリシガ、ソノ死後ハ自然閉ズルニ至レリ

(三) 塾主 (略)

(四) 生徒及教師の概数 男十名内外、女ナシ 教師数一

(五) 入退学 普通 八〜九歳 退学年齢 普通十

三〜四歳、修業年令 二年〜四年

(六) 課業時間・課業日 年中… (以下略)

(七) 教科目 習字・読書・算術

(八) 教科書名 習字 名頭・商売往来・千字文、読本 商売往来・都めぐり・國史略・四書五經・十八史略・論語・孟子、其他 平坂名

(九) 習字の流派 御家流

(十) 算術の教程 珠算(加・減・乗・除・開平・開立)

(十一) 行事 (略)

(十二) 娯楽の種類 将棋・角力・腕押・力持

(十三) 賞罰状況 (略)

(十四) 束収・謝儀の状況 盆ト正月ノ二期ニ謝儀

(十五) 偉人との関係 ナシ



愛媛県の寺子屋調査

この報告には次のような補足が記載されています。

寺子屋・手習師匠等調
前表ノ記載ノ他、尚ホ左記十ヶ処ノ手習師匠アリ
タリ：

場所

師匠

上弓削

神職

龜山正躬(師匠伝承あり)

久司浦

僧侶

無得師

同

商人

松田忠一

沢津

医師

水野忠広

同

僧侶

堪堂師

同

神主

宮原要

同

僧侶

田中祖教

同

医師

田中玄監

同

神主

宮原勇

同

前下弓削庄屋

菅橋吉

弓削島と同じように今治藩領であった魚島からは三通の報告が出されています。その所在地は、①大字井ノ頭、②大字井浦ニアリタルモ後井ノ頭トナル、③一番耕地大字篠塚道福寺とあり、④の道福寺の記載は次のようです。

(一) 沿革 「安政以前：融存和尚の後代：明治三年大東(東?)和尚来リテ寺子屋ヲ開ク、ソノ後、同所ニ簡易小学校開校、尼子校長来ル」

(四) 生徒及び教師の概数 「男、常二十名内外：女〇」

岩城の報告では、沿革の欄には「：起源不詳なれども、維新前約二十年頃より、八原氏(神官)宅及び本村六ヶ寺の各寺院内において読・書・珠算を学習せし模様なり」とあり、また維新後の状況は、「神官宅のものは日進堂となり、各寺院のものは、其のまま続きたりしが、明治四年、知新館創立せられ、大部は之に通学せしも、各寺院及び神官宅にも一部通学せり。其の後、明治七年、知新館は村立知新小学校となり、同二十年岩城尋常小学校となる」

生徒及教師の概数は、「男約六〇名、女約十名、教師数七名」とあり、他の島々では〇であった女子の就学数が注目されます。(八) 教科書名の部には、「維新後、『日本外史』『童子教』『女大学』と女子教育への配慮も見られます。この知新館には、近島からの就学者もあった模様です。

一方、生名島の寺子屋、正福寺の沿革は次のようです。「明治維新前における本村の教育は、時々流

罪に処せられたる松山藩士及び正福寺の僧侶により：明治の初年に至り、村上寛治、備後の国三原町なる宇都宮竜山翁に学び帰村し、一時私塾やうのものを開きしことありしも、素(もと)より塾生多からず、なお正福寺は唯一の教育場たりき。されど遂に明治九年に至り、本郡岩城村所有の旧校舎を購入して、正福寺の境内に杉皮ぶきに校舎を建て同年七月八日付けをもって学校設立の儀聴き届けらる」

塾主は「栗田與三・仏源和尚」の二人、その身分は「松山藩の流人、正福寺の僧侶」とあり、配流中の松山藩士が教師です。これ以前に配流されていた元松山藩家老奥平久兵衛にも似た伝承があります。生徒数は「男三七、女〇」とありますが、村上寛治(のち庄屋、村長、県議)のように著名な私塾で学んだ青年もありました。また、この報告では、女子は「〇」とありますが、村上寛治の姉妹は、みな正福寺で学んだとの伝承も残っています。

でも、男女平等への道のりは厳しいものでした。

上島には次のような民謡が伝わっています。「女が辛いのは横島・田島、なお辛いのは弓削・佐島」(女子大学院生の民俗学調査)

調査報告の(十三) 賞罰状況には、寺子屋の雰囲気は濃厚です。

成績良キ者 時々師匠代理、物品贈与

行儀悪キ者 起立、線香持チ(着火セルモノヲ持チ机ノ上ニ)、水入ノ「ドンブリ」提ゲ、机ヲ負ツテ帰宅

(十四) 束修謝儀は、ほとんど「盆と正月の二期に薄謝」だけです。でも、履修者は大活躍。

寺子屋教育だけで郷里(弓削)を巣立った田坂初太郎は日本ペイント社長に、浜根岸太郎(自性寺堪堂師の塾生)も海運界で大活躍します。



高濱八幡神社(弓削)

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授
上島町文化財保護審議会顧問 村上 貢 稿